

議会改革 議会活動の「ガラス張り」へ大きく前進



議会改革を議論する「議会基本条例推進委員会」で、三重県議会の先進事例を調査

「3つのガラス張り」最後の課題

後藤が「3つのガラス張り」として掲げる議会改革課題として、「カネII 政務調査費」「日常活動II 口利き」「議会活動」の透明化を訴えてきました。3つのうち、「政務調査費」「口利き」については100%透明化が既実現してきたところですが、残る課題が「議会活動」の透明化でした。

群馬県議会は、本会議はテレビ中継していますが、議案等を実質審議する委員会は議事録すら公開されておらず、議員が議会でのような発言をしているのかという肝心の部分が不透明なままです。

全国的には20以上の県で委員会議事録を公開しており、先進県ではインターネットでライブ中継をしている所もあります。

県会委議事録

発言者名「要約版」公表へ 自民一転受け入れ

県議会の情報公開推進に向け、県議会でつくる議会基本条例推進委員会(委員長・中沢丈二県議)が議論している委員会の議事録公開のあり方をめぐり、これまで発言者の氏名の公表に消極姿勢だった最大党派の自民党が、ホームページ(H.P)で現在公開されている「要約版」に限り、公表を容認する方針を決めたことが4日わかった。12日に開かれる推進委員会でも表明する。他会派の

了解が得られれば、議会運営委員会に諮り、早ければ2月県議会から発信者の氏名が公開される。委員会の議事録公開をめぐっては、第2会派のリベラル群馬などが「県議が委員会でのような発言をしたかは、県民が政策判断の過程を知る上で重要」と指摘し、発言者の氏名や、要約版より分量の多い「詳細版」の公開を強く求めている。一方、自民党はこれまで、

氏名を公表する場合には、発言の機会均等の観点などから「発言時間の制限が必要」などと主張し、公表に難色を示していた。各会派の意見の隔たりは大きかったが、自民党は「改革の必要性では一致している」と(県議)と態度を軟化させ、すでに公開されている要約版に限って氏名の公表を受け入れる方針に転じた。

2月5日 読売新聞より抜粋

5年越しの議論の末、前進をはかる

リベラル群馬は会派結成以来、議会改革の柱として委員会議事録の公開を主張してきましたが、自民党の強い抵抗で進まない状況が続いてきました。

しかし、今年度に入り、議会改革の方針を定める「議会基本条例」の制定を機に、後藤は「条例の名に恥じない議会改革を進めていくべき」と攻勢を強め、マスコミも強い関心を持つようになりました。以来、議会改革を議論する「議会基本条例推進委員会」において、検討課題と

して本格的な議論がスタート。先進県の視察などを通じて、当初は一貫して難色を示していた自民党も徐々に透明化に理解を示し、議事録を要約した内容を議員名入りで県のホームページにて公開することでも合意しました。

インターネットやライブ中継や議事録全文を公開する先進事例と比べると依然十分ではありませんが、最大党派が徹底して難色を示してきた現実を踏まえると大きな改革の前進と評価できます。

チェック機能強化に向け、次年度から「3会期制」へ

県議会は、これまで5月、9月、12月、2月と年4回の定例議会を行ってきましたが、次年度から、このうち9月と12月議会を一緒にし、年3回とすることを決定しました。

これにより、閉会していた11月の時期に前年度決算の審査を丁寧に行うことで議会のチェック機能を高めることを目指します。

地域活動三三報告 六郷地区



ハナミズキ通り大和屋北側



ファッションセンターしまむら前

筑縄町の2町内会からの陳情を受け、速やかに県警に検討を要請。地元・山田行雄市議と協力しながら現地調査とその後の折衝を経て、
①ハナミズキ通り大和屋北側、
②ファッションセンターしまむら前、
の2か所の信号機が新設されました。